

協会組織

総会

理事会

委員会

- ・総務委員会：協会運営全般に関すること
- ・技術研究委員会：先端技術開発・技術情報に関すること
- ・教育研修委員会：セミナー、講演会に関すること
- ・広報委員会：ホームページ、その他広報に関すること

事業内容

- 1 野生生物にかかわる調査研究
および個体・生息地の保全のための活動
- 2 野生生物にかかわる情報収集と提供
- 3 野生生物保全事業にかかわる
信頼性確保のための評価、
認定および人材育成
- 4 野生生物保全事業にかかわる普及啓発
- 5 野生生物保全にかかわる行政や民間等の
取り組みに対する提案・提言
- 6 その他 目的に達するために必要な事業

会員

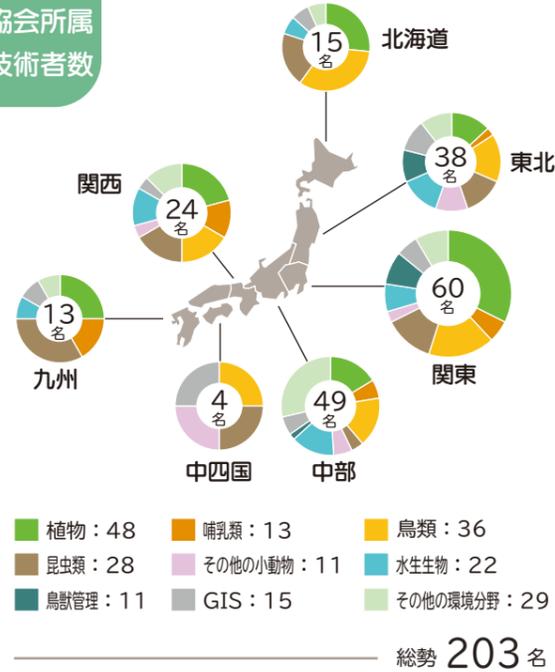
6社

- 株式会社 エコリス
- 株式会社 環境指標生物
- 株式会社 応用生物
- 株式会社 地域環境計画
- 株式会社 環境アセスメントセンター
- 株式会社 緑生研究所 (五十音順)

役員

- ・ 理事長：橘 敏雄
株式会社 応用生物 代表取締役
- ・ 副理事長：高塚 敏
株式会社 地域環境計画 代表取締役
- ：長谷 研次
株式会社 緑生研究所 代表取締役
- ・ 理事：柳澤 紀夫
公益財団法人 山階鳥類研究所 評議員
- ：星野 義延
東京農工大学農学部 功績教員
- ：高木 圭子
株式会社 環境指標生物 代表取締役
- ：佐竹 一秀
株式会社 エコリス 取締役会長
- ：河合 恒一
株式会社 環境アセスメントセンター 代表取締役
- ・ 監事：飯田 直久
弁護士・横浜弁護士会

協会所属
技術者数



<2021年12月現在>

入会のご案内

本協会の活動に賛同して入会を希望される方は、事務局までご連絡ください

[表紙写真] 左上より

- 1 段目 ・ギフチョウ (B) ・地衣類調査 (C) ・ニホンアカガエル (B) ・哺乳類調査 (E) ・クマタカ (A)
- 2 段目 ・猛禽類古巣調査 (D) ・オオルリ (D) ・イズナ (A) ・昆虫類調査 (D) ・環境教育 (D)
- 3 段目 ・ライチョウ幼鳥 (B) ・鳥類調査 (C) ● 4 段目 ・樹木診断 (E) ・カモシカ (A)
- 5 段目 ・ベンケイガニ (D) ・陸産貝類調査 (D) ・カジカガエル (C) ・シロヨメナ (C) ・トウホクサンショウウオ (A)
- 6 段目 ・ヤマブキ (A) ・キバネツノトンボ (D) ・魚類調査 (A) ・ヒガシシマドジョウ (C)
- 7 段目 ・アオダイショウ (C) ・アジアイトトンボ (D) ・大径木調査 (D) ・ツキノワグマ (A) ・昆虫類調査 (B)
- 8 段目 ・爬虫類調査 (E) ・カタクリ (A) ・昆虫類調査 (C) ・タガメ (A) ・上：オイカワ (B) 下：カマキリ (B)

[なか面写真：左下]

- 左：ドローンによる希少植物調査 (D)
- 中央上：キセキレイ (C) 右上：ヒメシジミ (A)
- 中央下：イヌセンボンタケ (C) 右下：セトウチマイマイ (D)

[写真提供]

- A：株式会社 エコリス
- B：株式会社 環境アセスメントセンター
- C：株式会社 環境指標生物
- D：株式会社 地域環境計画
- E：株式会社 緑生研究所

特定非営利活動法人
野生生物調査協会
Association of Wildlife Research

事務局

〒107-0062 東京都港区南青山4-12-3
Tell：03-3402-5416
Mail：webmaster@npo-wildlife.com
http://www.npo-wildlife.com



NPO法人 野生生物調査協会
設立からのあゆみ

日本で唯一の
生きもの調査・自然環境コンサルタントの
企業集団!!
その16年間の活動の軌跡をご紹介します。



協会の目的

本法人は、野生生物保全に関する「基礎研究と技術開発」、「保全技術者の育成」および「保全活動の社会に対する普及啓発」の3つを中心的な事業とし、持続的な生物多様性保全を実現していきます。

- 5月：設立
会員企業4社
・(株)応用生物
・(株)環境指標生物
・(株)地域環境計画
・(株)緑生研究所
- 8月
・設立総会
・協会HPの開設

ご挨拶

およそ50年前、日本では大規模開発による自然破壊の実態が次々に明らかにされ、自然環境保護の気運が大きな盛り上がりを見せていました。環境アセスメントという用語自体が一般的でなかった時代。「自然環境調査」の仕事はこの時に生まれたのです。現場を担ったのは大学や研究機関ではなく、自然環境の保護に強い関心をもっていた若者達でした。

当協会はそうした時代を経験してきた、いくつかの会社が集まり、人間活動と自然との調和という大きな課題に取り組んで参りました。これからもこの難問を解決すべくまい進する所存でございます。何卒よろしくご指導下さいませようお願い申し上げます。

理事長 橋 敏雄

今後の活動にむけて

時代とともに私たちに求められる技術や役割は複雑化、多様化してきましたが、私たちが目指すビジョンに大きな変化はありません。今後も引き続き、これまでの取り組みを継続すると共に、「世代を超えて技術を継承して行くこと」「野生生物との向き合い方を広く一般と共有すること」に特に力を入れて参ります。

- 会員企業
6社に
・(株)エコリス
・(株)環境アセスメントセンター
入会

技術の向上と継承

- ・シンポジウムの開催による調査技能・知識の向上
- ・各種講習会や教室の開催による調査技術継承、技術者育成
- ・調査機器の開発・改良 (LEDライトトラップ等)

社会への発信と共有

- ・日本のレッドデータ検索システムの開発及び改良による情報整備
- ・公開、体験型セミナー等を通じた情報発信
- ・野生生物保全に関わる各主体の取り組みに対する提案・提言

1 主な活動 人材育成 普及啓発

会員の調査技術や安全性の向上、一般市民への知識普及を目的として、各種講習会、シンポジウム、現地研修等の教育研修活動を行っています。

2 主な活動 会員の 交流

会員各社の社員が一同に会する交流の場として年1回の懇親会を開催しており、他では得られない情報交換やネットワークづくりの貴重な機会となっています。

3 主な活動 技術 研究

会員各社の高い技術力を活用し、野生動植物やその調査・保全に関する先端技術の開発や、生物多様性に関して多くの人々が共有できる技術情報の整備を行っています。

人材育成・普及啓発

2004	シンポジウム [テーマ] ・野生生物保全技術の現状と課題 多数の会員が会場に集まり、テーマに沿って会員や外部招聘した演者による講演をうかがい、意見交換を行っています。	受験講習会 ・生物分類技能検定 (~2007 毎年) 高度な生物調査を事業として行うにあたり、受注や実施のために必要となる資格の試験・対策について学んでいます。	日本レッドデータ検索システムの開発と運営 ・都道府県レッドデータブックの情報整理と比較検討 ・開発スタート 都市部にも点在する社叢林について、その動植物相や地域の生態系における機能等について検討を行いました。
2005	・地方版レッドデータブックの現状と課題 技術交流会 ・猛禽類 (ビデオの導入とその成果等) ・鳴く虫勉強会 (多摩川)	・技術士 (~2009 毎年)	・一般公開スタート 小動物の移動の妨げとなる道路側溝の設置や保全対策について、実務者が理解・検討しやすいマニュアルを作成しました。
2006	・環境アセスメントにおける生態系評価を考える 冊子発行 ・「側溝に落ちる小動物を救うには~小動物のバリアフリー対策~」	・技術士 (~2009 毎年)	・一般公開スタート 小動物の移動の妨げとなる道路側溝の設置や保全対策について、実務者が理解・検討しやすいマニュアルを作成しました。
2007	・外来生物の生態系に与える影響と今後の展望 協会レポート発行 ・「畑の生き物調査」マニュアル配付	・技術士 (~2009 毎年)	・一般公開スタート 小動物の移動の妨げとなる道路側溝の設置や保全対策について、実務者が理解・検討しやすいマニュアルを作成しました。
2008	・排水側溝の設置が野生生物に及ぼす影響と対策 協会レポート発行 ・「畑の生き物調査」マニュアル配付	・技術士 (~2009 毎年)	・一般公開スタート 小動物の移動の妨げとなる道路側溝の設置や保全対策について、実務者が理解・検討しやすいマニュアルを作成しました。
2009	・環境調査における生物定量評価手法 冊子発行 ・「畑の生き物調査」マニュアル配付	・技術士 (~2009 毎年)	・一般公開スタート 小動物の移動の妨げとなる道路側溝の設置や保全対策について、実務者が理解・検討しやすいマニュアルを作成しました。
2010	・生物多様性の保全と情報技術 協会レポート発行 ・「畑の生き物調査」マニュアル配付	・技術士 (~2009 毎年)	・一般公開スタート 小動物の移動の妨げとなる道路側溝の設置や保全対策について、実務者が理解・検討しやすいマニュアルを作成しました。
2011	・都市の生物多様性と評価 協会レポート発行 ・「畑の生き物調査」マニュアル配付	・技術士 (~2009 毎年)	・一般公開スタート 小動物の移動の妨げとなる道路側溝の設置や保全対策について、実務者が理解・検討しやすいマニュアルを作成しました。
2012	・日本の鳥獣保護管理の課題と展望 協会レポート発行 ・「畑の生き物調査」マニュアル配付	・技術士 (~2009 毎年)	・一般公開スタート 小動物の移動の妨げとなる道路側溝の設置や保全対策について、実務者が理解・検討しやすいマニュアルを作成しました。
2013	・技術交流会 (会員による技術発表) 協会レポート発行 ・「畑の生き物調査」マニュアル配付	・技術士 (~2009 毎年)	・一般公開スタート 小動物の移動の妨げとなる道路側溝の設置や保全対策について、実務者が理解・検討しやすいマニュアルを作成しました。
2014	・技術交流会 (会員による技術発表) 協会レポート発行 ・「畑の生き物調査」マニュアル配付	・技術士 (~2009 毎年)	・一般公開スタート 小動物の移動の妨げとなる道路側溝の設置や保全対策について、実務者が理解・検討しやすいマニュアルを作成しました。
2015	・技術交流会 (会員による技術発表) 協会レポート発行 ・「畑の生き物調査」マニュアル配付	・技術士 (~2009 毎年)	・一般公開スタート 小動物の移動の妨げとなる道路側溝の設置や保全対策について、実務者が理解・検討しやすいマニュアルを作成しました。
2016	・野生生物を扱う法律 (条令) の内容と実例 協会レポート発行 ・「畑の生き物調査」マニュアル配付	・技術士 (~2009 毎年)	・一般公開スタート 小動物の移動の妨げとなる道路側溝の設置や保全対策について、実務者が理解・検討しやすいマニュアルを作成しました。
2017	・機器の発達と新たな視点による活用法 協会レポート発行 ・「畑の生き物調査」マニュアル配付	・技術士 (~2009 毎年)	・一般公開スタート 小動物の移動の妨げとなる道路側溝の設置や保全対策について、実務者が理解・検討しやすいマニュアルを作成しました。
2018	・自然との新しい触れ合い方 協会レポート発行 ・「畑の生き物調査」マニュアル配付	・技術士 (~2009 毎年)	・一般公開スタート 小動物の移動の妨げとなる道路側溝の設置や保全対策について、実務者が理解・検討しやすいマニュアルを作成しました。
2019	・野生鳥獣管理と被害対策の取り組み 協会レポート発行 ・「畑の生き物調査」マニュアル配付	・技術士 (~2009 毎年)	・一般公開スタート 小動物の移動の妨げとなる道路側溝の設置や保全対策について、実務者が理解・検討しやすいマニュアルを作成しました。
2020	・野生鳥獣管理と被害対策の取り組み 協会レポート発行 ・「畑の生き物調査」マニュアル配付	・技術士 (~2009 毎年)	・一般公開スタート 小動物の移動の妨げとなる道路側溝の設置や保全対策について、実務者が理解・検討しやすいマニュアルを作成しました。

レッドデータ検索システム

レッドデータブックやレッドリストは、絶滅の危機に瀕する野生動植物の名前をリストアップし、その危機の現状を訴えています。我が国では国内を対象とした環境省レッドリストだけでなく、都道府県ごとに整備されたものがあり、本システムは、希少な動植物を様々な切り口で検索でき、さらに全国の指定状況を俯瞰しやすい地図の塗り分けで表現しています。なお、それぞれのリストが数年おきに更新されるため、毎年データベースの更新を継続しています。

URL <http://jpnrd.com/>

LED ライトトラップ光源

昆虫調査において、光に集まる性質を利用した採集方法として、ライトトラップがあります。

従来は光源として蛍光灯ブラックライトや誘蛾灯など、電力消費の大きい大型の機器を用いるのが一般的で、設置期間や地点数の制約が大きい状況でした。そこで、小型軽量化と省電力化を目指し、紫外線 LED を用いた光源の開発を行いました。光源は製品化して代理店を通じて販売するとともに、その機能性を実験により検証し、改良品の開発を進めています。

お求めは「六本脚」まで
<http://kawamo.co.jp/ropon-ashi/sub837.htm>

